



# AT-TQ4600/4400/3400/3200 リリースノート

この度は、AT-TQ4600/4400/3400/3200 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 3.1.0

### 2 本バージョンで追加・拡張された機能

ファームウェアバージョン **3.0.4** から **3.1.0** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加・拡張されました。

#### 2.1 ファシリティー

ファシリティー選択機能をサポート。ファシリティー選択機能を使用することにより、Syslog サーバーに送信するログのファシリティーを選択できます。V.3.0.4 以前の AT-TQ2403 互換モードは、本機能に統合しました。

#### 2.2 バンドステアリング

バンドステアリング機能をサポート。バンドステアリング機能を使用することにより、5GHz 帯への接続を優先するようになり 2.4GHz 帯の混雑を解消します。

#### 2.3 異機種間での WDS 接続

AT-TQ シリーズ (AT-TQ4600、AT-TQ4400、AT-TQ3600、AT-TQ3400、AT-TQ3200、AT-TQ2450) 間での WDS 接続をサポートしました。なお、WDS 接続には、次の条件を満たす必要があります。

- ・ 同一ファームウェアバージョン
- ・ 同一の無線チャンネル
- ・ 同一の IEEE 802.11 無線モード (11a/n と 11a/n/ac の組み合わせは可)

### 3 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン **3.0.4** から **3.1.0** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

#### 3.1 気象レーダー検出時の動作

(AT-TQ4600/4400/3400 のみ) W53 または W56 のみを設定している場合に、設定中の全チャンネルで気象レーダーとみなされる波形が検出されると、アクセスポイントはレーダーとの干渉を避けるため自動的に 36 チャンネルに変更していましたが、V.3.1.0 では無線の出力を無効にします。

## 4 本バージョンで修正された項目

---

ファームウェアバージョン **3.0.4** から **3.1.0** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 クラスタにおいて、チャンネル固定機能が正しく動作しない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.2 (AT-TQ3400のみ) AT-UWC 管理下で AT-TQ3400 に WDS 接続の設定を適用する場合において、ルート AP 側に適用する AP プロファイル に特定の条件が含まれると、ルート AP としての設定が正しく入らず WDS 接続ができないことがありますが、これを修正しました。

## 5 本バージョンでの制限事項

---

ファームウェアバージョン **3.1.0** には、以下の制限事項があります。

### 5.1 VAP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)

- ダイナミック VLAN (WPA エンタープライズ) 環境で、無線クライアントの検疫を実行するように RADIUS サーバーが設定されている場合、無線クライアントに VLAN 間ローミングが発生すると、無線クライアントの認証に失敗することがあります。
- 無線クライアントがアクセスポイントから切断して 3 秒以内に再接続すると、RADIUS アカウンティングパケットに設定されるセッション ID が更新されません。

### 5.2 WDS 多段接続

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「WDS」](#)

多段で WDS 構成をする場合は、3 台程度での構成を推奨します。4 台以上の多段接続は未サポートです。

AP -- (WDS) -- AP -- (WDS) -- AP

注意：アクセスポイント (AP) を何段も経由するとスループットが低下するため、導入の際は実環境にて事前調査を行うことを推奨します。

### 5.3 WDS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「WDS」](#)

AT-UWC 管理下で WDS のサテライト AP に設定する WDS グループパスワードは、バックアップファイルとしてダウンロードを行ったコンフィグファイルに保存されません。設定情報を筐体 A からダウンロードして筐体 B にリストアする場合は、WDS のサテライト AP に設定する WDS グループパスワードを再設定してください。

---

## 5.4 MAC フィルタリング

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「MAC フィルタリング」](#)

MAC フィルタリング機能の「リスト上の全てのステーションをブロックする」フィルターと WDS の併用はできません。併用すると WDS のリンクが切断されてしまいます。WDS と MAC フィルタリングを併用する場合は、「リスト上のステーションのみを許可する」を選択し、無線クライアントのリストに対向アクセスポイントの MAC アドレスを追加してください。

---

## 5.5 クラスタ

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスタ」](#) / [「アクセスポイント」](#)

- クラスタ機能において、ひとつのクラスタに所属可能なアクセスポイント数を超える台数（17 台以上）を追加すると、画面上では 17 台目以降の情報は表示されませんが、追加したアクセスポイントでクラスタの設定が共有されたり、誤動作を起こしたりすることがあります。
- クラスタ機能は、異機種間、異なるファームウェアバージョン間での使用や、WDS 機能との併用はできません。

---

## 5.6 送信 / 受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)

起動の際に、VAP インターフェースの送信カウンターがカウントアップしますが、表示のみで実際にはパケットを送信していません。

---

## 5.7 SNMP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

SNMP の設定において、「SNMP SET リクエストの許可」は未サポートです。

---

## 6 リファレンスマニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル（613-001965 Rev.D）は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>